

平成25年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙のほかに、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

以下のグラフは、農林水産省が発表している都道府県別食料自給率（平成 22 年度概算値）の一部をグラフ化したものである（縦軸の単位は％）。以下の問いに答えなさい。

（データ元：http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html, 2012/08/27）

非公開

- 問 1 全国の食料自給率は、生産額ベースでは 69％、カロリーベースでは 39％となっている。この違いから、日本の食糧生産の現状について推定されることを 200 字以上、400 字以内で説明しなさい。なお、全国の食料自給率は以下の式で計算されている。

$$\text{（カロリーベース自給率）} = \text{国産供給熱量} / \text{国内総供給熱量} \times 100$$

$$\text{（生産額ベース自給率）} = \text{食料の国内生産額} / \text{食料の国内消費仕向額} \times 100$$

- 問 2 上のグラフを見ると、都道府県ごとにそれぞれ特徴があることがわかる。その特徴を挙げるとともに、沖縄県の食料自給率の現状について推定されることを合わせて、400 字以上、600 字以内で説明しなさい。
- 問 3 以上の結果を踏まえて、バイオテクノロジー技術を応用して沖縄県の農業を活性化するにはどのようにすればよいかについて、自分の考えを 200 字以上、400 字以内で説明しなさい。

平成25年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

出題の意図

亜熱帯生物資源科学科ではアドミッションポリシーとして、「生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人」を求める人材の一つとして掲げている。バイオテクノロジー技術について普段から興味を抱き、その応用についての関心を持っている人物は、本学科に入学するのにふさわしい資質を持っていると言える。

本試験では、食料自給率という数字をどの程度理解できているかについて見るとともに、グラフから得られるデータを分析・解析する能力と、それを基にした論理的な説明をする能力について見る。バイオテクノロジー技術に普段からどの程度関心を持っているのかも見る。